

フィリピン共和国レイテ島地すべり再調査

＜地下まゆみ¹⁾・上野 宏共¹⁾・坂本 尚史¹⁾＞

2006年2月17日の地すべり発生直後の2006年3月に続き、ちょうど1年後の2007年3月、千葉科学大学調査隊は再調査を行った。



1. レイテ島セントバーナード市ギンサウゴン地すべり地。2006年2月の崩壊土砂の上に2007年1月に標高460m付近(写真右上)より発生した崩壊土砂が流出。



2. 粘土を含む酸化帯。標高約350m地点において見られた湧水部の酸化帯。現地の案内人によると水は「Hot Spring」であるという。



3. 堰止め湖。ギンサウゴン崩壊地最東端、標高約70m、道路が寸断されている。



4. 2006年の崩壊直後の写真(左)と二次地すべり発生後の写真(右). 植生が覆っている土砂は、2006年に崩壊した土砂.



5. 「グラウンド・ゼロ」に建てられた十字架. 日曜の礼拝には沢山の人々が祈りをささげている.



6. 崩壊地で確認された断層の南延長約20kmに見られる地すべり地形と地割れ. 地割れの方向は崩壊地のものと一致.